



地域経済振興発展の戦略： 富良野市まちづくりの事例（第2報）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2012-11-07 キーワード: 作成者: 亀畑, 義彦, 中根, 正彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00003677

地域経済振興発展の戦略

—— 富良野市まちづくりの事例 —— (第2報)

亀 畑 義 彦・中 根 正 彦*

第2章 富良野市まちづくり計画

1. 意 義

1966年5月1日北海道29番目の市制施行都市として富良野市が誕生したのを契機に、「新市建設計画（1967～1972年）」、「市建設計画（1972～1981年）」が長期的総合計画として策定・推進されてきた。特にこの間、我国では、高度経済成長期の中で経済的に発展してきたが、精神的なゆとりに欠けていた点は反省せざるを得ない。最近の社会動向として、金銭や物質の価値を重要視した経済優先から精神面だでの人間性回復への機運が高まってきたことは喜ばしいことである。本市の場合も、市民生活を豊かにし、さらにはますますの活性化に結びつけるために新しいまちづくりが必要になってきた。新しいまちづくりの意義とは何かということをお今日ほど強く問われている時代はない。地方の時代と言われて久しいが、地方行政にとって地域の自主性・自立性をどのように確立していくのかという具体的な活動が求められてきている。本計画の基本構想は、流動化し、価値の多様化する社会に対応していくために市民総意に基づくまちづくりが最も重要であると考えたところに意義がある。その一例として、市長の諮問に応じ必要な調査及び審議を行う機関として1979年6月30日に富良野市まちづくり市民会議を条例化（条例第13号）し、構成員は、本市の区域内の公共的団体等の代表者、その他住民の中から市長が委嘱している。また、同条例施行規則（規則第16号）では、生活環境部会・市民生活部会・産業振興部会・基盤整備部会・教育文化部会の5専門部会を設置し組織的運営がされてきている。計画の策定経過としては、1979年6月から1981年12月の基本構想の原案可決までの間に、庁内策定委員会23回、富良野市まちづくり計画市民会議43回、市議会基本構想審査特別委員会9回、移動市長室50回を開催し、参加者数1,532人、意見要望件数817件となっている。

この基本構想は、本市の自然的・歴史的・社会経済的な諸条件を考慮し、市民の意見を結集した望ましい都市を築き上げるための構想の推進及び施策の基本方向を明らかにし、総合的なまちづくりの指針となるものである⁽¹⁾。

2. 計画の骨子

(1) 計画年度

1981年度から2000年を目標にした20カ年である。このうち、1981年から1990年までの10カ

年を基本計画年度とし、具体的な実施計画を地区別に配慮しながら流動的な時代背景に放応できるように前期5カ年、後期5カ年に区分し、後期5カ年については、実効性を確保するためにその時点で見直しを行う。

(2) 将来像

豊かな自然、たゆまぬ進歩、さわやかな交流がささえる「創造的な田園都市」の実現である。

(3) 都市像

快適な拠点づくり、充実した福祉都市づくり、自然と調和した活力ある生産都市づくりの4本である。

(4) 地区計画

市内を東山、東部、山部、西部、市街の5地区に区分し、地域の均衡ある発展を目指す。

(5) 重点目標

①農林畜産業の基盤整備を積極的に推進する。②農林畜産加工業などの地場産業を積極的に育成する。③通年観光に積極的に対応する。④香り高い文化の創造に努める。⑤地区の拠点の形成と特質づくりを展開する。

(6) 事業費

前期227億円、後期265億円を予定する。

本計画の特徴は、市域を5地区に区分し、各地区の特性を尊重しながら市民の連帯と自主性に支えられた地区整備計画が樹立され、地区の再生・拠点づくりを目指しているところにある。

3. 都市像から見た課題

(1) 快適な拠点都市づくり

本市は、中心市街地とその周辺に広がる農村・集落とによって構成されている。市民生活に格差が生じないように配慮するとともに、市内の地区間格差を解消するために、居住環境の質的向上を図るような施策を進める。また、富良野広域生活圏の中心拠点でもあることから、圏域全体の福祉と利便向上のために積極的な役割を果たしていく必要が強まっている。生活基盤を支える主要生活道路を始め、地区間主要交通網を充実させることが必要である。さらに、地区の居住性を高めるために、上下水道の整備・保健医療・教育・文化機関の総合的な配置等、生活の基礎的施設整備を優先的に進める。中心市街地に於ては、快適都市空間を創り出すために、適正な土地利用に基づき、住宅・商店・緑地等とともに、生活道路・歩道の整備を進める。緑のマスタープランに基づく、自然に適合した緑地造成、公園などの市街地と農村部との調和のとれた緑のネットワークづくりを進める。居住地周辺環境については、安全性を最優先しながら、衛生的で美しい都市空間をつくる。特に冬期間に於ては、道路保全、除雪、防災等、市民の協力と相互協調に基づく環境の維持・管理にため、安全で快適なまちづくりを目指す。

(2) 充実した福祉都市づくり

過疎地域として様々な課題をかかえている本市は、安心して定住できる生活基盤の充実が何よりである。保健医療機関の充実はもとより、遠隔地に於ける医療不安を解消し、健康であるための身体づくり、精神的なやすらぎを確保するための余暇利用、近隣相互の助け合い等、信頼と安心のための条件づくりを積極的に推進する。福祉は、市民の日常生活そのものであるという認識にたつて、人間性を回復する地域社会を創造していく。また、高齢化社会の到来を昨イイメージでとらえるのではなく、老人の余暇や社会寄与に関心が高まっていくことを見通しながら、高齢者の経験という

貴重な資産を社会的に高く評価されるような地域社会構造を創り上げていくことが必要である。

(3) 活発な文化都市づくり

現代社会に於ける課題の一つに人間性の回復があろう。創造性豊かな人間愛にあふれた郷土づくりをするためにも教育に課せられた使命は大きい。教育環境の基盤として、学校施設設備の充実、教育器材の充実など遅れている教育・文化施設の整備を進める。地域社会の発展には、教育機関の果す役割は大きく、後継者対策を考えるうえに於ても重要なものである。教育・文化のあり方は生活の根本課題であることから、地区コミュニティ活動をさらに助長し、生活に根ざした文化の創造を促進していく必要がある。社会教育の充実は、文化創造の一翼をになっている。地区に於ける文化の継承と新たな創造、芸術の生活への取り込みが行われ、それが市域・圏域に於て交流され、全道・全国、そして世界的な規模による活発な交流がなされるようなまちづくりを進める。特に本市は、青少年の情操教育の場として、自然とふれあう文化を念頭におき、美しい田園と森林、山岳等自然に親しむユニークで雄大なスケールの教育、文化環境づくりをめざす。

(4) 自然と調和した活力ある生産都市づくり

本市は、道内でも有数の生産性の高い農業によって支えられてきた。平野部は、農業性基盤整備もほぼ見通しがつき、農産加工、流通改善等への発展がみられるようになってきた。これらの農業基盤のうえにたつて、これから何をすべきかが重要な課題である。持続性のある農業生産を維持するためには、自然の生態系に合致した土づくり、有機農業を展開し、適切な複合経営を推進していくとともに、将来の食糧資源確保に備えていく。また、豊富な地場資源を活用して多種多様な加工産業をおこしていくことが、活力ある生産都市へ再生していく道である。都市構造の変化、消費動向の多様化に対応して、魅力ある商店街の開発整備、流通機構の再編成等新しい課題に取り組む必要が大きくなってきている。特に富良野圏域一市三町一村の経済圏を背景とする商業の振興、中小企業の育成等を積極的に推進する必要がある。すぐれた自然を活用し、四季を通じて人々が訪れ、やすらぎを得られるような大自然の中の健全なレクリエーション都市をめざす。森林は、自然の循環機能の中できわめて重要な働きをしていることから、林産資源の無駄のない適切な活用をはかるとともに、付加価値の高い林産加工の方途を開発していく。農業を始め、林業・工業・商業・観光等・自然との調和のとれた総合的な経済活動機能を発揮することによって、豊かな生産都市を確立する。

4. 前期5カ年計画の実績

投資事業の予定総額 227 億円に対し、実績総額は 210 億 3 千万円で 92.6 % の達成率である。社会経済情勢の変化、国の財政悪化による公共事業の抑制や補助率の削減、市民要望の対応政策など厳しい財政状況にありながらもほぼ計画通り進行了と思われる⁽²⁾。実績を各区分毎に調査すると次の通りである。

(1) 都市の実績

①快適な拠点都市づくりでは、治水・治山、道路網の整備・交通通信の確保、居住環境の整備、環境衛生の充実、安全な市民生活の確保など、計画額 94 億 6 千万円に対し 79 億 3 千万円(83.8 %)である。

②充実した福祉都市づくりでは、保健医療の充実・老人・児童・勤労者福祉の充実など、計画額 15 億 4 千万円に対し 11 億円(71.4 %)である。

③活発な文化都市づくりでは、学校教育の充実、社会教育の充実、芸術文化の振興、スポーツの振興など、計画額 20 億 4 千万円に対し 20 億 3 千万円 (99.5%) である。

④自然と調和した活力ある生産都市づくりでは、農林業・商工業の振興・観光の振興など、計画額 96 億 2 千万円に対し 99 億 1 千万円 (103.0%) である。

⑤市民の責任ある参加によるまちづくりでは、コミュニティ活動の促進・市民参加の行政など、計画額 4 千万円に対し 4 千 9 百万円 (119.5%) である。

(2) 地区計画の実績

①東山地区では、国営かん排や畑地帯総合土地改良事業・新農耕・農道などの農業生産基盤整備が中心である。これに保育所・福祉施設・西達市消防庁舎の建設費、橋梁整備などを加えて、実績は 50 億 1 千万円、達成率 99.5% である。

②東部地区では、国営かん排や農地開発、畑地帯総合土地改良事業、新農構などの農業生産基盤整備の他、保育所・集落センター、布礼別小中学校の建設・テレビ難視解消事業による中継局建設などを加えて、実績は 43 億 1 千万円、達成率 113.6% である。

③山部地区では、農業総合整備モデル事業を中心に、集落道の改舗装や排水施設整備の他、簡易水道の新設、農業高校の増築、消防庁舎の新築、太陽の里の拡充などである。福祉センター建設を延期したため、実績は若干低く 22 億 7 千万円、達成率 86.4% である。

④西部地区では、農業が主体ながらも定住意識の最も強い地区で、農業生産基盤整備も順調に進み、チーズ工場等の食品加工事業を導入し、布部小中学校、簡易水道、ラベンダーの森（ハイランドふらの）などの事業を推進し、実績は 39 億 1 千万円、達成率 101.4% である。

⑤市街地区では、市内及び広域圏の中核的役割を担うための都市機能の充実に向けて、医療・街路・公営住宅・公園・福祉施設の整備が中心である。公共下水道事業が低水準の実施にとどまったが、実績は 49 億円、達成率 70.9% である。

前期計画の効果として、第 1 に遅れていた生活環境基盤や教育施設、畑地帯を中心とした農業基盤などが整備されたこと、第 2 に地域経済が徐々に上昇してきたことで、農業を基幹産業に据え、そこから波及する効果として期待していた農産加工業の安定的な拡大、観光産業への拡がりが見られる。第 3 に市民のまちづくり意識の高揚と富良野市への愛着、誇りが育ってきていることである。このことがまちの活力を高めるために市民が様々な試みに向かいつつあり、いわばまちづくりの主人公的な意識形成が大きく進んできている。従って活性化の見地からみて、過疎を脱却し、評価を得るまちに進展しつつある基盤ができたといえる。

5. 後期 5 年計画

(1) 計画策定の考え方

本計画は、社会経済的背景が非常に厳しいという認識に基づき、その適切な対応と前期計画の実績を踏まえて 5 年間の事業を策定している⁽³⁾。従って、策定に当っては、事業の適切な選択と行財政の健全な将来運営に配慮が行なわれている。特に住み続けたいまちへのイメージを具体化していかうとする考え方で、移動市長室、まちづくり推進市民会議、各種団体などから提言を求めるといった市民対話と参加の手法を積極的に取り入れ、地域経済の活性化という大きな視点に立ちながら、本市の地域特性を生かした個性的なまちづくりの推進が要求されることである。

(2) 都市像の事業ポイント

①快適な拠点都市をめざして

施策の柱は、土地、有効利用、治水・治山、道路網の整備、交通通信の確保、居住環境の整備、環境衛生の充実、安全な市民生活の7本で、投資予定事業費は98億6,630万円である。このうち特徴的な事業は次の通りである。

○緑化推進条例は1986年中に制定し、緑の保全地区指定による景観の維持、公共施設等の緑化推進地区の指定などを柱に、ゆとりと潤いのあるまちづくりをめざす。

○市道では、ワールドカップ・スキー大会の混雑解消や食品工業団地内道路造成を兼ねた中御料五区連絡線、北の峰環状線の整備のほか、市街地及び地区の主要道路の整備を計画的に進める。

○テレビ難視聴対策では、1986年度に市が東山に中継局を自主建設し、難視地区の解消を図る。空知川河川緑地は、5条大橋周辺約3kmの堤外高水敷整備(国の事業)の進行にあわせて約60haを公園化するもので、ゲートボール場、ソフトボール場、野球場、ラグビー場、テニスコート、ランニングコース等の造成を進める。

○公共下水道は、より文化的な生活づくりのため、後期から終末処理場の建設に着手する。

○資源回収施設は、ごみの分別収集が軌道に乗ったことから、生ごみ以外のごみから可燃性のものを抽出し、これに農業廃棄物を混ぜて固形燃料としての活用を考え、有価物を可能な範囲で回収する施設をつくる。

②充実した福祉都市をめざして

施策の柱は、保健医療の充実、勤労者福祉の向上、消費生活の安定の4本で、投資予定事業費は9億5,030万円である。このうち特徴的な事業は次の通りである。

○健康センターは、市民の保健思想、食生活、薬品等に対する正しい知識の指導や相談を行うほか、各種検診、予防接種など保健衛生センター機能を目指して開設する。

地域センター病院は、救急医療、2次医療を中心に整備を進める。山部厚生病院は、東山を含めた地域医療に対応すべく充実を図る。

○山部地区には、老人福祉センターを建設し、ふれあいの拠点として、さらには趣味の増進、医療や保健相談が可能な施設として開放する。

○高齢者事業団については、老後の生きがい充実や健康のために就労を希望する人たちなどが各人の希望に適した仕事を有料で引き受けする形で設立し、その運営と育成を進める。

○勤労者福祉では、働く人や婦人などのセンターとすべく勤労者会館(仮称)の新築を行ない、消費生活センターは併設の方向で検討する。

③活発な文化都市をめざして

施策の柱は、学校教育の充実、社会教育の充実、芸術・文化の振興、スポーツの振興、大学及び試験研究機関、広域的な交流の6本で、投資予定事業費は22億5,580万円である。このうち特徴的な事業は次の通りである。

○老朽危険校舎の解消と永久構造を目指し、山部小学校と麓郷中学校の改築を行なう。

○農業高校は、全日制への転換にともなう校舎増築等の施設整備を1982年度から実施しているが、後期では農場、実習施設などについて整備を進める。

○図書館は、郷土博物館機能を含めた複合的な施設として建設する。遠隔地読者サービスとして大型の図書館車を導入し、通年による巡回サービスを実施する。

○海外派遣事業は、市と民間をあわせて5,000万円を目標に基金の積み立てを行ない、その運用利益を活用して市民を海外に派遣する。

④自然と調和した活力ある生産都市をめざして

施策の柱は、農林業の振興、鉱工業の振興、商業の振興、観光の振興、労働力対策、資源・エネルギーの有効利用の6本で、投資予定事業費132億2,280万円である。このうち特徴的な事業は次の通りである。

○農業生産基盤は、国及び道の資金を導入して整備を促進する。畑地帯総合土地改良事業では八富地区の新規着工、農地開発では富良野東部地区の事業化を進める。食品工業団地は、地場農産物等を活用した企業を中心に、道内にも例のない緑に囲まれた特色ある団地として中五区の高台に確保するもので、用地は立地企業の意向によって分筆、造成が行なわれ、市は幹線道路、用排水、緑地等の整備を行なうものである。また、企業誘致条例の見直しや企業誘致推進事業などにより企業立地を進める。

○地場産業の振興では、技能者養成や新製品開発研究奨励事業、融資事業の充実のほか、地場製品の展示即売・PRの拠点となるふらの物産センターの建設、地場製品愛用運動の展開や関連したイベントの開発を進める。

○商店街の組織化、近代化を進め、商圈の拡大を図る。観光では、通年・滞在型を促進すべく拠点施設の整備充実とあわせて、都市と農村との交流事業の促進や観光PR活動の充実、イベントの開発、接客向上運動の展開など、ソフト部門における協力体制の強化を図る。

⑤市民の責任ある参加によるまちづくりをめざして

施策の柱は、市民参加の行政、行政の近代化と財政の健全化であり、投資事業費1億7,360万円である。

このうち特徴的な事業は次の通りである。

○市民対話と参加を基調とした行政を展開するため、その基盤となるコミュニティ組織の育成と自主的活動を助長する。具体的なものとしては、従来のコミュニティ活性化事業に加えて、コミュニティリーダーの養成や組織間交流の促進など、自らが学び実践への足がかりとすべく条件、機会づくりを進める。

○コミュニティ活動の拠点となる地区集会施設の建設を行なうとともに、施設の有効な利用と地域の自主活動を促進するために、地域に管理運営を委ねていくことも検討する。

6. 富良野広域圏のまちづくり

富良野地区広域生活圏及び富良野地区広域市町村圏は、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の1市3町1村で形成されていることから、1市町村に限定せずに周辺地域と連携し、地域毎の特色を出した主体性のあるまちづくり事業が推進されている。1987年11月に北海道開発局は、道内市町村及び第三セクターを含む民間が主体となって進められている事業を対象に調査を行なっている⁽⁴⁾が、富良野広域圏で実施中の事業を抜粋すると表1の通りである。

7. まちづくりの市民意識

富良野市は、1986年市民を対象に「あなたと市政を結ぶアンケート調査」を実施している。回答率は31.5%（回答者473人）と低率であったが、まちの話題や行事57.9%、まちづくり計画56.2%、市政の動き43.6%に興味を示している（複数回答）。

市がまちづくりの様子を公共施設の見学を通して理解を深めるために年2回開催している市民施設見学会に対しては、参加したいが74.8%と関心度が高い、参加したいと答えた人の見学希望施設は、富良野スキー場ゴンドラ展望40.0%、チーズ工場37.0%、最も新しい施設35.6%、市内の企業35.0%、有機物供給センター31.1%、ワイン工場22.9%、東郷ダム15.8%、ハイランドふらのの15.0%などの順で、新しい施設又は個人では行きづらい施設を望んでいることがわかる。

今後力を入れるべき重要課題については、快適な生活環境として上下水道の32.8%、道路、橋梁などの整備25.4%、充実した福祉、保健医療整備として保健医療の充実45.9%、高齢者対策23.9%、活発な地域文化の振興として文化、教養施設の整備31.1%、青少年の健全育成事業28.8%、市民参加による活力あるまちづくりとして市民活動、コミュニティ活動の育成41.0%、市政PRと市民相談の充実25.8%、自然と調和した活力ある産業振興として農産加工業の振興37.6%、観光拠点の整備と観光産業の育成21.4%が主なものである。市民が望む21世紀の社会については、観光や加工業などが発達し、経済の活発な社会(54.3%)と社会福祉がしっかりした思いやりのある社会(49.0%)を半数の人が望んでいることがわかる。

また、21世紀を展望した富良野市地域経済活性化計画を策定するための調査研究の一環として、1986年に策定受託者である野村総合研究所と富良野市が協議して市民722人の協力を得てアンケート調査を実施しており、内容は、富良野らしさのイメージとして豊かな自然(自然の豊かさ、気候条件)、観光資源、北海道の中心)、豊かな一次産品(おいしい農産品)、素朴な町と人柄(人情味が豊か、田園都市)の4項目に大別されている。これらの富良野らしさは、市民にとって本市の好きなどころでもあり、今後も守り育てていくことが必要であると考えられる。富良野市への永住の意向については、永住したいが79.4%、よそへ移りたいが10.7%、わからないが9.6%、不明が0.3%である。永住したい理由は、永年住みなれていることに加えて富良野らしさや好きなどころであげられた自然環境が良い、おいしい食物、人情味が豊かという富良野の良さが評価されている。

これに対して他へ移りたい理由は、よい働き場所がないこと、教育、文化、福祉、医療環境に恵まれないことなど、現在の富良野市に欠けていると推定される点が理由になっている。他へ移りたいとする人は、若年から中年層にかけての働き盛りの年代に多く、難しい問題をかかえている。今回のアンケート調査では、富良野市出身者のUターン希望の状況についても伺っており、この結果から少なくとも800人程度のUターン希望者がいるものと推定されている。Uターンを希望する理由は、第一が家庭の事情によるものであるが、これとともに自然の良さなど市外に出て改めて富良野の良さを再認識したとする回答も多くみられる。

ここに1988年に行われた市民によるまちづくりの主な活動事例を紹介する。

① 21世紀(あす)のふらのを語るコンベンション'88

富良野青年会議所主催により4月16日開催し、参加者は300人である。リゾート化が目される中で、もう一度まちづくりに市民の知恵を結集し、富良野の未来へ向かって今何をなすべきかを考えるのが目的である。基調講演の後、まちづくり計画、青少年対策、国際都市化、イベント活性化の4分科会で討論されている。

② 富良野活性化懇談会

富良野商工会議所会頭の私的諮問機関で1988年1月に発足している。市民各層から15人が委嘱され、10回の会合を重ねて地元商工業の活性化を主眼としたまちづくりの提言を6月にまとめている。検討内容は、観光地としての魅力ある商店街づくり、地場産業振興、まちづくりと文化、国際都市としてのあり方、交通輸送の5項目である。この中で、富良野のイメージ像として「都会的な雰囲気のあるすてきな田舎町」と定義づけ、具体的には今後「ルーバンふらの」と呼称するように

提言している。ルーバンとは、ルーラン（田舎風）とアーバン（都会風）の合成新語である。さらに提言は、富良野のイメージと現行の商店街のギャップ、商店街活性化具体策、今後の展望と背景などにも及び、総合的解決策として、

- コアFURANO構想（JR駅移転とJR敷地活用）
- FURANOヤングタウン構想（朝日倉庫群の活用）
- ロマンチックロード（北の峰地区と市街地区の連絡道）
- グルメゾーン造成
- セントラルパーク構想（都市公園造成）
- 歴史ある建物の保存と活用

の6項目をあげている。

③国際交流団体・インターリンク

富良野には、毎年観光やワールドカップ杯アルペンスキー大会などで多くの外国人が訪れるが、役所や企業を離れて市民が外国人と接触する機会はほとんどない。そこで、訪れた外国人との交流を広げようと、国際都市のまちづくりへ向けて市民レベルのボランティアとして発足している。通訳や国際交流行事への参加、市内の主要施設の案内・観光PRなどを実施している。

以上から市民のまちづくり意識の向上が考えられる。

註

- (1) 富良野市『富良野市まちづくり計画』1981年、p.22—28
- (2) 富良野市『中心標が立つまち、PART II』p.32—33
- (3) 富良野市『中心標が立つまち、PART II』p.21—27
- (4) 財北海道開発協会『北海道プロジェクト総覧』1988年、p.153—156
(亀畑義彦 本学教授・旭川分校 中根正彦 富良野市ぶどう果樹研究所・ワイン製造科長)

地域経済振興発展の戦略

表1 富良野広域圏のプロジェクト

プロジェクト名	計画位置 (市町村)	事業主体	計 画 概 要	
			計 画 内 容	計画年度 総事業費
富良野スキー場周辺リ ゾート	富良野市	富良野市 民間	<p>【目 的】 富良野スキー場と市街地を含む周辺地域を、地域拠点としての都市機能の充実とともに、スポーツ・文化・宿泊研修施設が一体的に整備し、教養文化の高揚と体力づくりが図られる国際的にもグレードの高いリゾート地域としての整備を図る。</p> <p>【計画面積】 3,808 ha</p> <p>【計画内容】 新富良野プリンスホテル(SRC-12F 3B 400室800人収容)63年12月オープン 富良野スキー場整備(ゴンドラ2基、リフト11基、高速4人乗りリフト4基増設)空地川河川緑地運動公園(テニスコート10面、ソフトボール場3面、野球場3面、多目的グラウンド2面)</p> <p>【イベント】 北海へそ祭、富良野ワインぶどう祭、ワールドカップスキー大会、ユニバーシアード冬季札幌大会</p> <p>【関連計画】 北海道富良野・大雪リゾート整備構想</p>	~1996 百万円 44,300
朝日ヶ丘公園整備事業	"	富良野市	<p>【目 的】 富良野芦別道立自然公園に隣接するフラヌイ風致公園、日赤の森を合わせて緑の多い風致的な特徴ある都市計画公園とし、総合的な整備を進め、市民の憩いの場として提供するとともに、広く観光客にも開放する。</p> <p>【計画面積】 10.5 ha</p> <p>【計画内容】 園路広場施設(園路、芝生広場、軽スポーツ広場)、修景施設(植栽、花壇、築山、大池、石碑)、休養施設(休憩所、ベンチ、野外車、交流の館)、遊戯施設(木製遊具)、運動施設(鉄棒)、教養施設(郷土の森、未来の森、花木の森、果実の森)、便益施設、管理施設</p> <p>【関連計画】 北海道富良野・大雪リゾート整備構想</p>	1984~91 542
野外活動施設整備事業 (空知川河川敷地緑地 計画)	"	"	<p>【目 的】 滝里ダム貯水池上流端に位置する空知川河川敷地を整備し、高水敷地の有効活用による観光資源の開発と市民の野外活動施設として開放する。</p> <p>【計画面積】 85 ha</p> <p>【計画内容】 テニスコート(10面)、野球場(3面)、ソフトボール場(3面)、ゲートボール場(10面)、ラグビー兼アメリカフットボール場(2面)、修景緑地環境整備、河川環境整備事業</p>	1987~91 150
廃棄物処理対策事業	"	"	<p>【目 的】 生ゴミの堆肥化による地力増進、不燃ゴミの再資源活用、可燃性ゴミ及び農業廃棄物による固形燃料化、資源リサイクルの確立対策など廃棄物の有効活用を目指す。</p> <p>【計画面積】</p> <p>【計画内容】 有機物供給センター(工場棟RC造一部2階建、延床面積987m²、管理棟)、農業廃棄物処理施設(固型燃料化施設)、関連施設(焼却炉、最終処分場)</p> <p>【関連事業】 新地域農業生産総合振興対策事業 農村地域定住促進対策事業(農水省)</p>	1982~88 708
深山峠開発事業	上富良野 町	上富良野町、 民間	<p>【目 的】 秀峰十勝岳を中心に大雪山国立公園の山々と富良野盆地を一望することのできる景勝地深山峠の自然を活用し、観光振興、育成を図り、地域住民のレクリエーションの場、憩いの場、コミュニケーションの場として広く活用する。</p> <p>【計画面積】 88 ha</p> <p>【計画内容】 コミュニティ広場、駐車場、広場、ミニゴルフ場(9ホール)、ミニ結婚式場、水耕栽培見本園、観光牧場、香りの植物園、物産館、レストラン、宿泊休養施設、青少年キャンプ場</p> <p>【イベント】 ラベンダーまつり</p> <p>【関連計画】 北海道富良野・大雪リゾート整備構想</p>	1986~95 2,000
日の出公園整備事業	"	上富良野町	<p>【目 的】 本町の町花「ラベンダー」活用した観光開発を図るとともに、青少年の健全育成や住民コミュニティの場として活用する。</p> <p>【計画面積】 10.7 ha</p> <p>【計画内容】 運動広場、芝広場、キャンプ場、展望台、野外ステージ、管理棟、天望駐車場、修景広場、駐車場、メインアプローチ</p> <p>【関連計画】 北海道富良野・大雪リゾート整備構想</p>	1983~90 297

亀畑義彦・中根正彦

プロジェクト名	計画位置 (市町村)	事業主体	計 画 概 要		
			計 画 内 容	計画年度 総事業費	
かなやま湖畔リゾート整備事業	南富良野町	南富良野町・民間・第三セクター	<p>【目 的】 近年の国民の健康志向と余暇充実傾向に対応して、本町の恵まれた自然と環境を活かし、保養とスポーツ・レクを中心とした施設の整備促進と充実を図るとともに、地域の特性を活かしたカントリーライフ、文化の拠点としての整備を図り、地域社会との連携を密にしたリゾート地の形成を目指し、地域の活性化を図る。</p> <p>【計画面積】 6,503 ha</p> <p>【計画内容】</p> <p>【金山湖湖畔リゾート】</p> <p>湖畔休業施設（クアハウス、コテージ70棟） 文化教養施設（野外音楽堂、楽楽スタジオ、ログハウス、ペンション） 山村広場（運動場、ゲートボール広場、遊歩道、駐車場） スキー場（ゲレンデ15.3ha、リフト3基、ロッジ） かなやま湖森林公園（森林運動施設13基、バンガロー10棟、保養センター、テニスコート、ゴーカート広場、林間広場、林間駐車場、休憩施設、農林漁業者健康増進施設、研修センター、カヌー競技関連施設） 地場産業活性化対策施設（ニジマス種苗生産供給施設、遊漁等施設整備） スポーツ施設の整備（水上スポーツ研修センター、ファミリースキー場、スケート場） 湖畔サイクリング道路整備（湖畔周遊サイクリング道路、関連施設の整備） 森林整備事業（体験学習の森、ミュージックの森、リゾートペンション） ダム環境整備事業（キャンプ場等整備） 内水面振興事業（浮桟橋整備等）</p> <p>【山岳高原リゾート】</p> <p>山岳リゾート大学施設（校舎、野外音楽堂、屋内体育館） スポーツレク施設（スキー場3地区、ゴルフ場）</p> <p>【イベント】 かなやま湖湖水まつり 64はまなす団体カヌー競技 カヌーフェスタ in かなやま湖</p> <p>【関連計画】 北海道富良野・大雪リゾート整備構想 ヒューマングリーンプラン（林野庁）</p>	1980～96	百万円 22,235
福祉村の建設	"	南富良野町、社会福祉法人	<p>【目 的】 社会の高齢化、地域社会における福祉行政や福祉サービスの拡大の要請に対応しつつ、「福祉村」建設によってまちづくりの一つの特色の形成と広域的な分担機能を担う。</p> <p>【計画面積】 27.5 ha</p> <p>【計画内容】</p> <p>町総合福祉センター、特別養護老人ホーム、精神薄弱者更生施設、高齢者研修センター、やわらぎ公園、精神薄弱者援護施設、道立養護学校</p> <p>【関連事業】 社会福祉施設等整備事業（厚生省）</p>	1973～90	1,701
石勝高原総合レクリエーション施設整備事業	占冠村	関兵精麦㈱、㈱シムカップリゾート開発公社	<p>【目 的】 最近の多様化した観光レクリエーション動向をふまえて、スポーツ、レクリエーションを中心とするハイレベルな施設群を体系的に整備し、新たに質の高い通年型のリゾートエリアを創出することにより雇用の場の創出、生産物の消費などにつながり、又過疎脱却を図る。</p> <p>【計画面積】 1,017 ha</p> <p>【計画内容】</p> <p>【スポーツレクリエーション施設】</p> <p>スキー場関連施設（ゲレンデ160ha、リフト16基、ゴンドラ1基、インフォメーションセンター、リゾートセンター） ゴルフ場（18ホール、84ha）、テニスコート（19面）、スポーツフィールド、野球場、乗馬クラブ、インドアスポーツ&エキシビジョンホール、スノーバスライダー、ウォーターパーク、フィールドアーチェリー</p> <p>【教養文化施設】</p> <p>国際会議場、教会、野外音楽堂</p> <p>【休業施設】</p> <p>オートキャンプ場、キャンプ場、森林公園野鳥の森</p> <p>【宿泊施設】</p> <p>ザ・タワー（5棟）、コテージ（1,200戸）、コンドミニアム（200戸）、ホテルアルファ・トマム（155室）、ビレッジ（305ユニット）</p> <p>【その他】</p> <p>ショッピングモール、水辺公園</p> <p>【関連計画】 北海道富良野・大雪リゾート整備構想</p>	1981～98	116,569
ニニウ自然の国建設事業	"	占冠村、第三セクター	<p>【目 的】 豊かな自然環境と残存する廃屋、学校、農地等を活用し、人間と人間、人間と自然との交流、対話を通して各種の体験活動ができる新しいスタイルの総合的社会教育の場とする。</p> <p>【計画面積】 80 ha</p> <p>【計画内容】</p> <p>中心施設ゾーン（サイクリングターミナル、野営場、バンガロー、野外集会施設） 製作ゾーン（石材工芸、木工芸、山菜加工） 視察ゾーン（展望台、遊歩道） 農業ゾーン（園芸、小果樹、体験農園） 野外活動ゾーン（サイクルスポーツ～自転車、モトクロス、歩くスキー、スノーモバイル、フィールドスポーツ～テニスコート、多目的広場）</p> <p>【関連事業】 新農業構造改造事業、新林業構造改善事業</p>	1983～88	486

(出所：北海道プロジェクト総覧，P.153～156)